

学級崩壊の背景にあるもの

「学級崩壊」の背景にあるものは、授業なのか、それとも教師と子どもとの人間関係なのか、具体的な意識調査を通して見直す。

【調査1】

○いい授業をしていれば「学級崩壊」はおこらないと思うか。

	とてもそう思う	やや思う	計
小学校教諭	16.6%	37.6%	54.2%
中学校教諭	14.1%	37.7%	51.8%

○教師と子どもとの人間関係がよければ「学級崩壊」はおこらないと思うか。

	とてもそう思う	やや思う	計
小学校教諭	48.8%	41.3%	90.1%
中学校教諭	42.3%	41.9%	84.2%

教師は、「授業」の充実よりも子どもとの関係の方が重要だと考えている。

【調査2】

○授業をしている先生が好きだったら、授業をじゃましたり妨害したりする子はいないと思うか。

	とてもそう思う	やや思う	計
小学生	33.0%	35.4%	68.4%
中学生	19.3%	38.0%	57.3%

子どもは、教師との関係よりも「授業」の充実が重要だと考えている。

○授業が楽しかったら、授業をじゃましたり妨害したりする子はいないと思うか。

	とてもそう思う	やや思う	計
小学生	40.9%	33.2%	74.1%
中学生	33.0%	39.4%	72.4%

相関係数にみる「学校適応の要

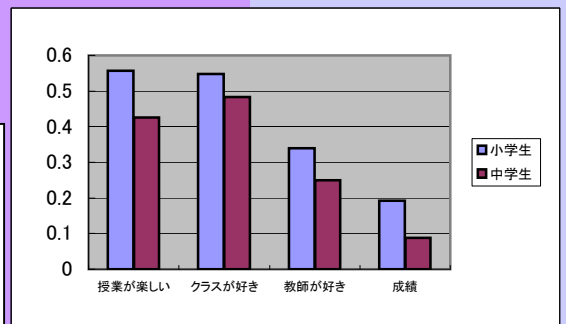
【調査3】

○「学校が好き」ということと強い相関が見られる要因

(相関係数)

	授業が楽しい	クラスが好き	教師が好き	成績
小学生	0.557	0.548	0.339	0.192
中学生	0.425	0.484	0.25	0.088

小中学生ともに「学校が好き」と「授業が楽しい」との間の相関係数がかなり高い。それは「教師が好き」、そして「成績」との相関係数をはるかに超える。これまで、「教師が好きだから」「成績がいいから」学校が好きなのだろうと理解されてきた。しかし、それらの要因以上に「授業が楽しい」ということが「学校が好き」に強く結びついている。つまり、学校適応は「教師」や「成績」より「授業」の問題であることが明らかになったのである。



教師と子どもたちとの意見の相違を象徴的に表現すると、
 ・いい教師—子ども関係がなければ、いい授業はできないのか
 それとも
 ・いい授業によって、いい教師—子ども関係ができるのか
 ということである。

多くの教師は、「いい教師—子ども関係がなければ、いい授業はできない」と考えている。では、いい教師—子ども関係はどうやって作るのか。子どもたちの回答をみるまでもなく、これは授業をにおいて他はない。いい授業ができなくて、子どもたちとのいい関係は築けない。そして、子どもたちから信頼されるはずもない。いい教師—子ども関係があって授業が成立するのではなく、いい授業によっていい教師—子ども関係が成立する。子ども理解も結構。カウンセリング・マインドも結構。しかし、そのまえにまず授業なのである。